

2018年度 総合評価方式（前期） 小論文試験講評

立命館アジア太平洋大学

※著作権の関係上、出題した問題文や引用先書籍名は公表できません。

前期①（試験日 9月9日）

課題文は科学技術に関する表現もあり、やや難解な点もありましたが、近年話題になっている課題でもあるため、内容を理解することは難しくなかったと思われます。

内容理解度を問う設問に対しては、課題文の要旨を踏まえた適切な解答が多くを占めました。ただ、一部で部分的にしか解答ができていないものや、基礎的な文章表現上の誤り、誤字・脱字が散見され、それらは減点対象としました。

筆者の論考について、自分自身の考えについて具体例をあげながら説明することを求めた設問においては、多くの受験生が適切な解答をしていました。受験生にとって親しみのある課題であると思われ、具体例も適切にあげつつ自らの考えを展開することができていました。そのため、高得点を得る受験生も多く、平均点は高いものになりました。

なお、解答が指定文字数の7割程度未満である場合や、適切に段落が設けられていない解答、誤字・脱字、その他言語表現上の誤りも散見され、それらは減点対象としました。

前期②（試験日 9月10日）

課題文は大学を巡って近年話題になっているものを取り上げるものでした。日常的に社会事象への関心を広く持っている受験生であれば、内容の理解は容易であったと思われます。一方で、日頃ニュースなどにあまり関心を持っていない受験生であれば、内容の理解が難しく感じることもあったと思われます。

内容理解度を問う設問に対しては、課題文の要旨を踏まえた適切な解答が多くを占めました。ただ、一部で部分的にしか解答ができていないものや、基礎的な文章表現上の誤り、誤字・脱字が散見され、それらは減点対象としました。

課題文の内容にもとづいて、自分自身の考えを論じることを求めた設問においては、設問の意味への理解が浅く、設問の求めに正しく答えられてない解答や、課題や設問の意図と離れて自分自身の考えのみを展開している解答も散見されました。一方で、課題文の論を踏まえて設問に適切に答えている解答は高い評価を得ました。

なお、解答が指定文字数の7割程度未満である場合や、適切に段落が設けられていない解答、誤字・脱字、その他言語表現上の誤りも散見され、それらは減点対象としました。

以上